

家庭・教育環境がジェンダー意識に与える影響

椋山女学園大学 野崎ゼミ

伊藤由利菜 加藤那奈 神谷若菜 橋本夏実 太田英令奈 吉田胡桃

Outline

1. 問題の背景と研究の目的
2. 先行研究の整理と仮説の提示
3. データとモデル
4. 推計結果と考察
5. 結論と留保

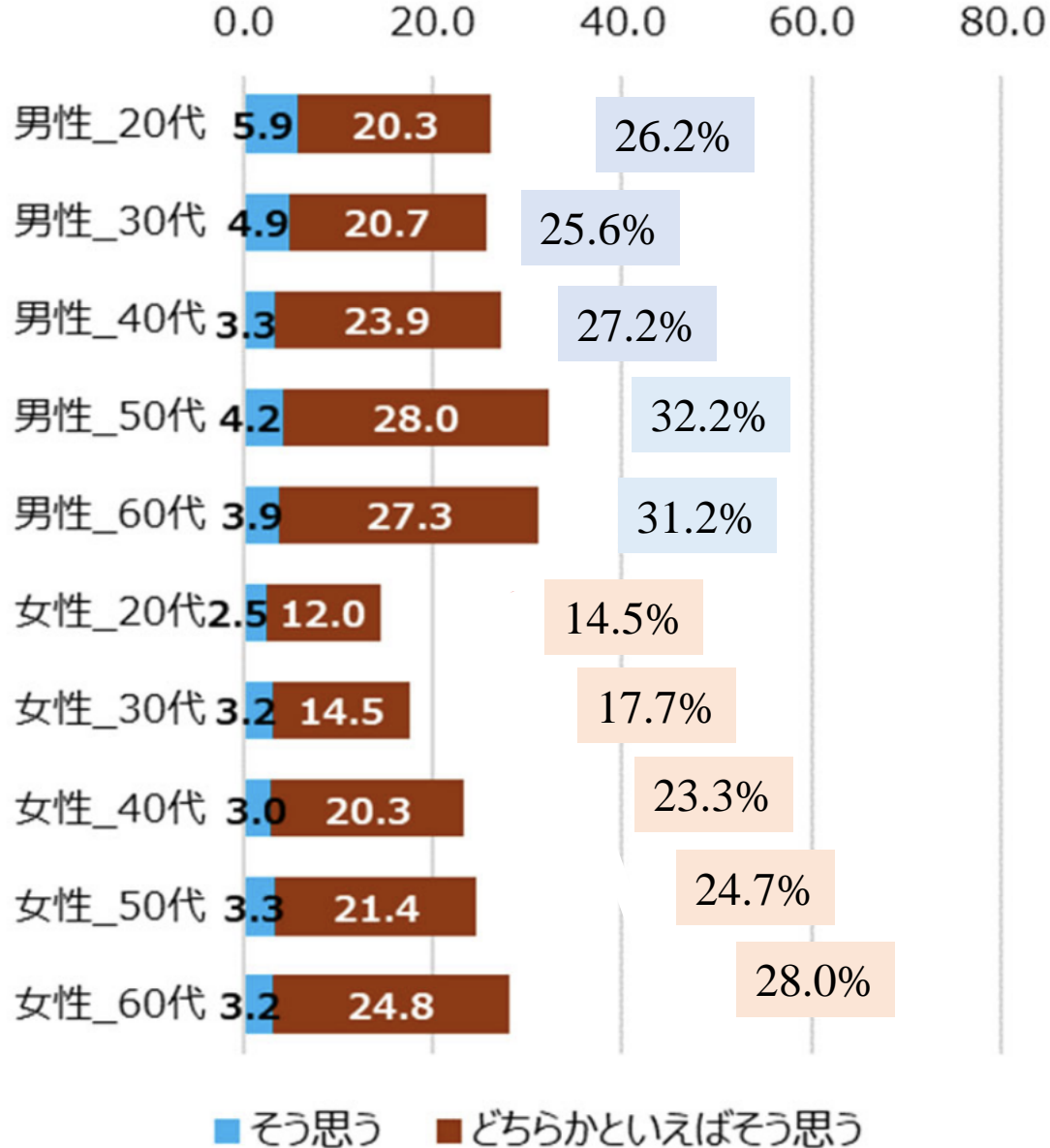
1. 問題の背景と本研究の目的

性別役割分業意識は変化したか

- ・ 性別役割分業とは、性別によってつくられた男女の生活上の行動様式。「男性は仕事、女性は家庭」「男らしく、女らしく」はそのうち社会的文化的役割を指す（高橋,2006）
- ・ 1979～2016年にかけて、否定的な人の割合は、女性で23%から59%へ、男性では17%から49%へと大きく変化（NHK放送文化研究所,2020）
- ・ 2000年代以降、変化は緩やかになり、肯定割合が増える時点も認められるようになった（内閣府,2017）

【共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ】

(%)



男女で異なるジェンダー意識

男性は女性ほど性別役割分業意識の変化はみられないばかりか若い世代では深化の兆し

女性は若い年代ほど性別役割分業意識が希薄化

資料) 内閣府男女共同参画局「令和4年度 性別による無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関する調査研究」

性別役割分業意識の規定要因：3つの仮説

(西野,2015)

1. 社会化（埋め込み）仮説

個人が幼少期から成人期まで、意識が形成される側面に着目。規定要因として、家庭環境、教育、世代など

2. 加齢仮説

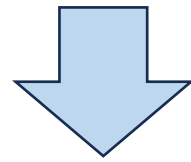
個人の成長につれ意識が変容する側面（年齢）による変化に着目。

3. 可塑性を前提とする仮説

個人が置かれた状況による意識変化に着目。親の就業状況等。

社会化仮説：生育環境

ジェンダー意識は個人のアイデンティティや
社会的影響を与える

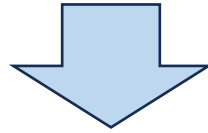


家庭での親のしつけ
学校でのジェンダー教育

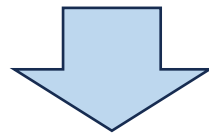
伝統的なジェンダー観に基づく価値観の連鎖から
社会的格差やステレオタイプの再生産につながる可能性

本研究の目的

家庭環境・学校教育が性別役割分業意識に及ぼす影響
について男女別に検証



社会全体のジェンダー観の変革に資する知見を提供



ジェンダー平等の実現に向けた
政策的なインプリケーションを得る

2. 先行研究の整理と仮説の提示

家庭環境：子どものしつけ

(Doepke&Zilibotti,2019)



育児スタイルとは

↳ 親が子どもを育てる際に採用する幅広い戦略のこと

育児スタイルが子どもの発達に重要である

・異なる子育て方法で作った子ども

↳ 異なる優先傾向・態度・スキルを身に着ける

家庭環境：育児スタイル

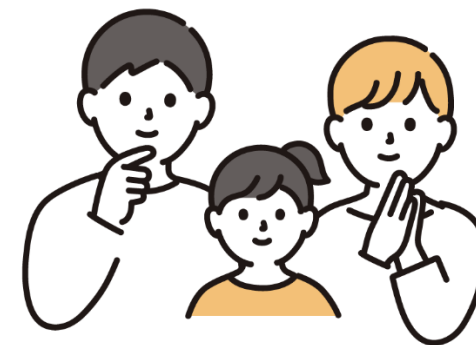
(Baumrind,1966,1967)

- 専制型
- 迎合型
- 指導型



育児スタイル：専制型

(Doepke&Zilibotti,2019)



育児スタイル

服従を要求、厳しくコントロール

- ・親は厳格で高い要求をし、子ども 의견や感情をあまり考慮しない.
- ・規律を重視し、罰を用いることが多い.

専制型育児スタイルで育つ子どもは

- ・従順だが自尊心が低く、不安を感じやすい
- ・自己肯定感の低下から人間関係が困難に
- ・さらには子どもの反発を招くように.

育児スタイル：指導型

(Doepke&Zilibotti,2019)



育児スタイル

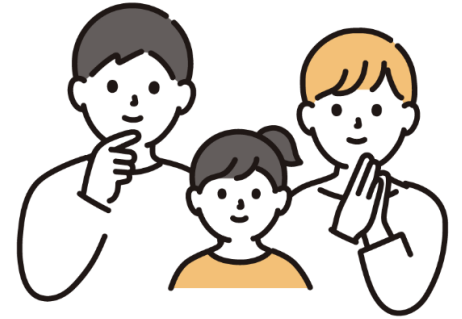
指示や指導を通じて、子どもの価値観を形成

- ・説明、権力、管理、強化による形成を用いて、目的を達成する
- ・集団の合意や子ども個人の欲望に基づく決定を行わない。
- ・固定概念が軟化されることで、親はより柔軟で効果的な育児が可能に。
- ・親は高い要求をしつつも、子どもの意見や感情を尊重。
- ・規律を守らせる一方で、温かみとサポートを提供。

指導型育児スタイルで育つ子どもは

- ・自信があり、社会的スキルも高い傾向

家庭環境：男女の違い



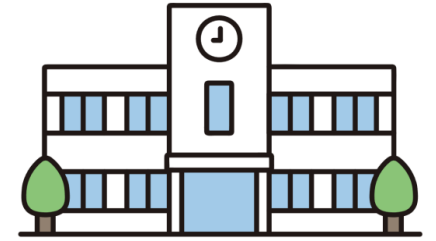
子どものしつけ方は父母で異なる (久世・津田, 1984)

- ・ 父親は社会生活で重視される特性を重視：公正さ/正義感
- ・ 母親は子どもの心の在り方に関する特性を重視：思いやり/落ち着き

子どものしつけ方は子どもの性別で異なる (山瀬, 2003)

- ・ 男子であれば独創性やはっきりとした個性を
- ・ 女子であれば情緒の安定性や周囲との調和、穏やかさを

学校教育の効果



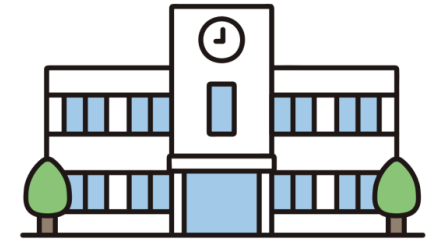
- ・ 学校行事における男女の役割分担、男女別名簿などは性差別の助長につながる「隠れたカリキュラム」(木村,2022)
- ・ 男女別のグループ活動では、女子の行動量や発話量は増える(稲田,2013)
- ・ 教師がジェンダー平等意識を持つことが重要(寺町,2021)
- ・ 男女間のジェンダー不平等の解消は、学校教育においても推進される必要がある(齋藤,2023)

学校教育：政府によるジェンダー授業の取り組み

内閣府

民間団体等と協働し副教材を作成

例) 男女共同参画社会をテーマとした副教材

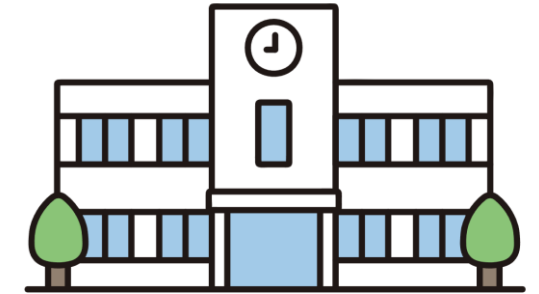


学校・地域

現在は学校や地域が判断して授業を実施

学校教育：政府によるジェンダー授業の取り組み

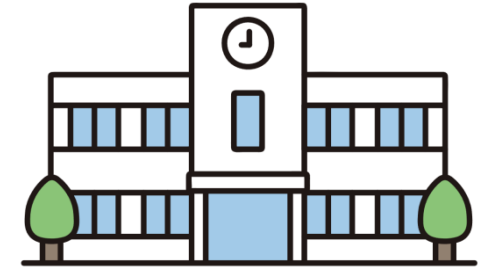
文部科学省



- ・ 授業実施の義務付けはないが、推奨している状態
→ジェンダーへの理解を深めるため
- ・ 教員向けの研修プログラムを独立行政法人へ委託
令和二年度「次世代のライフプランニング教育推進事業」

男女別学の効果

(茂木,2010)



高校タイプ別

- ・ 別学進学校は男女平等を学ぶ機会が少ないが、ジェンダー平等意識が高い
- ・ 共学進学校は男女平等を学ぶ機会が少なく、ジェンダー平等意識も別学進学校と比較すると低い

性別別

- ・ 男子より女子の方がジェンダー平等意識が高い
- ・ 女子より男子の方が性別分業意識が高い

別学進学校・共学進学校とその教育環境におけるジェンダー平等意識の差 (茂木,2010)

仮説の提示

家庭環境や学校教育は性別役割分業意識に影響を及ぼす

しかし家庭環境と学校教育の両方の影響についての包括的な研究はほとんど蓄積されていない。

本研究では性別役割分業意識に関連する情報を豊富に網羅するデータを用いて、家庭環境および学校教育が及ぼす性別役割分業の影響が男女でどのように異なるのかを検証する。

3. データとモデル

データの概要

大学生のジェンダーと子育て意識・行動に関する調査

調査時期	2006年11月
対象	東京都A私立大学（男女共学）の学生
実施方法	紙媒体によるアンケート調査
標本抽出法	有意抽出法
標本数	844
調査方法	機縁法

立教大学社会情報教育研究センター社会調査アーカイブより提供

二値選択モデル：ロジットモデル

$$y_i^* = \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \dots + \beta_n x_n + \varepsilon_i = \beta' x_i + \varepsilon_i$$

$$y_i = \begin{cases} 1, & \text{if } y_i^* \geq 0 \\ 0, & \text{if } y_i^* < 0 \end{cases}$$

- 被説明変数 性別役割分業意識
そう思わない（1）～ そう思う（4）
1 = そう思う、0 = そう思わない 二値変数を作成
- 説明変数 ① 育児スタイル：親に～言われた。
指導型：「料理・洗濯くらいできるようになりなさい」
専制型：「男の子なんだから泣くな」
「女の子そんな口の利き方をするな」
- 説明変数 ② 学校でのジェンダー教育受講の有無（高校、大学）

4. 推計結果

記述統計量(1)

Variable	Mean or %	SD	Mean or %	SD	<i>p</i> -value*
	男性		女性		
性別役割分業意識 (1=そう思う,0=そう思わない)					
男性	12.2%		-	-	
女性	-	-	12.4%		
指導型 parenting : 料理・洗濯の勧め	25.9%		47.2%		< 0.001
専制型 parenting					
男の子なんだから泣くな	17.2%	0.38			
女の子なんだから口のきき方に気をつける			33.3%		
学校でのジェンダー教育の有無：高校で受講					0.17
男性	59.1%		-	-	
女性	-	-	65.1%		
学校でのジェンダー教育の有無：大学で受講					0.24
男性	48.3%				
女性			53.5%		

N=501

**p* value for difference male vs. female, comparisons by chi-squared or *t*-test.

記述統計量(2)

Variable	Mean or % SD		Mean or % SD		<i>p</i> -value*
	男性		女性		
Control variables					
年齢 (歳)	20.12	1.46	19.84	1.32	0.01
性別 (男性=1, 女性=0)	46.3%		53.7%		
兄弟の有無					
兄ダミー	29.7%		26.8%		0.46
弟ダミー	27.6%		27.5%		0.98
姉ダミー	28.9%		21.9%		0.07
妹ダミー	28.9%		26.0%		0.52
一人暮らしか否か	22.4%		19.7%		
別学経験					
高校のみ3年間	9.0%		9.4%		0.46
中学・高校と6年間	9.6%		15.2%		
両親の教育					
大学・大学院卒ダミー：父親	76.3%		82.5%		
大学・大学院卒ダミー：母親	37.9%		46.1%		0.07

N=501

**p* value for difference male vs. female, comparisons by chi-squared or *t*-test.

推計結果：男性

	Model 1			Model 2			Model 3		
	Coefficient	Z-static		Coefficient	Z-static		Coefficient	Z-static	
親のしつけ									
指導型 parenting	-1.01	-2.98	**	-0.91	-2.66	**	-0.91	-2.52	*
専制型 parenting	1.04	3.37	**	1.07	3.36	**	0.75	2.14	*
学校での教育									
高校で受講				-0.90	-2.89	**	-0.97	-2.87	**
大学で受講				-1.00	-3.14	**	-1.09	-3.15	**
定数項	-1.92	-10.69	**	-0.99	-3.32	**	-0.07	-0.03	
Log likelihood	-175.31			-168.42			-151.38		
McFadden's R ²	0.06			0.09			0.18		
Total Obs	501			501			501		

† p < .10 * p < .05 ** p < .01

推計結果 男性

	Model 1			Model 2			Model 3		
	Coefficient	Z-static		Coefficient	Z-static		Coefficient	Z-static	
親のしつけ									
指導型 parenting	-1.01	-2.98	**	-0.91	-2.66	**	-0.91	-2.52	*
専制型 parenting	1.04	3.37	**	1.07	3.36	**	0.75	2.14	*
学校での教育									
高校で受講				-0.90	-2.89	**	-0.97	-2.87	**
大学で受講				-1.00	-3.14	**	-1.09	-3.15	**
コントロール変数									
年齢							-0.06	-0.44	
兄の有無							0.13	0.33	
弟の有無							-0.65	-1.46	
姉の有無							0.28	0.75	
妹の有無							0.30	0.86	
一人暮らしか否か							-0.21	-0.50	
別学経験									
高校のみ3年間							1.65	4.22	**
中学・高校と6年間							1.60	3.76	**
両親の教育レベル									
父親が大学・大学院卒							-0.41	-0.98	
母親が大学・大学院卒							0.34	1.03	
定数項	-1.92	-10.69	**	-0.99	-3.32	**	-0.07	-0.03	
Log likelihood	-175.31			-168.42			-151.38		
McFadden's R ²	0.06			0.09			0.18		
Total Obs	501			501			501		

† p < .10 * p < .05 ** p < .01

推計結果：女性

	Model 1		Model 2		Model 3				
	Coefficient	Z-static	Coefficient	Z-static	Coefficient	Z-static			
親のしつけ									
指導型 parenting	0.42	1.44	0.41	1.42	0.20	0.64			
専制型 parenting	0.82	2.83	**	0.80	2.72	**	0.69	2.17	*
学校での教育									
高校で受講			0.09	0.28	0.12	0.35			
大学で受講			0.11	0.38	0.19	0.60			
定数項	-2.48	-11.38	**	-2.58	-7.58	**	-2.32	-0.98	
Log likelihood	-180.56		-180.47		-163.49				
McFadden's R ²	0.04		0.04		0.13				
Total Obs	501		501		501				

† p < .10 * p < .05 ** p < .01

推計結果 女性

	Model 1		Model 2		Model 3	
	Coefficient	Z-static	Coefficient	Z-static	Coefficient	Z-static
親のしつけ						
指導型 parenting	0.42	1.44	0.41	1.42	0.20	0.64
専制型 parenting	0.82	2.83 **	0.80	2.72 **	0.69	2.17 *
学校での教育						
高校で受講			0.09	0.28	0.12	0.35
大学で受講			0.11	0.38	0.19	0.60
コントロール変数						
年齢					-0.04	-0.36
兄の有無					-0.08	-0.23
弟の有無					0.10	0.27
姉の有無					-0.56	-1.39
妹の有無					-0.13	-0.39
一人暮らしか否か					0.63	1.81 †
別学経験						
高校のみ3年間					1.48	3.52 **
中学・高校と6年間					1.66	4.78 **
両親の教育レベル						
父親が大学・大学院卒					-0.02	-0.04
母親が大学・大学院卒					0.17	0.54
定数項	-2.48	-11.38 **	-2.58	-7.58 **	-2.32	-0.98
Log likelihood	-180.56		-180.47		-163.49	
McFadden's R ²	0.04		0.04		0.13	
Total Obs	501		501		501	

† p < .10 * p < .05 ** p < .01

6. 結論と留保

推計結果のまとめ

1. 家庭環境：親の育児スタイル

- ・ 男性では指導型のしつけを受けた場合は、性別役割分業意識を持つ確率が低く、専制型のしつけ方を受けた場合は性別役割分業意識を持つ確率が高くなる結果となった。
- ・ 女性では専制型のしつけに関しては男性と同様に性別役割分業意識を持つ確率が高くなるが指導型のしつけの影響はみられなかった。

2. 学校教育：ジェンダー教育の有無

- ・ 男性では高校、大学ともにジェンダー教育の授業を受けた場合は性別役割分業意識を持つ確率が有意に低くなることが認められた。

3. 男女別学の効果

- ・ 男性のみ、中学高校の6年間、高校の3年間を別学であった場合は有意に性別役割分業意識を持つ確率が高くなっている。

女性にはなぜ指導型の効果が発揮されないのか

性別に基づく期待や役割を意識して育つことが多い



ジェンダー問題に関する認識が早い段階で育まれることが一般的

一方で女性は専制的な育児スタイルの影響を受けやすい

「男なんだから泣くな」 **17.2%**

「女なんだから口のきき方には気を付けるように」 **33.3%**

女性の方が
高い

「泣く」などの感情的な行動



頻繁にみられない

「言葉遣い」や「話し方」



日常的に注意を向けられやすい

結果の解釈

ジェンダー意識の形成には
家庭での育て方や学校での教育が重要な役割を果たす

性別役割意識に与える影響は男性でより大きい

家庭内でのしつけ

伝統的な価値観を再生産する要因となりやすい

学校での教育

その固定観念を緩和する役割を果たしている

家庭内でのしつけ

女性に対する保守的な性別役割の押し付け
→女性のキャリア進出やリーダーシップの発揮を阻害する可能性
男女平等な役割分担の意識を家庭教育で根付かせる必要

家庭内での育て方が男性のジェンダー意識に大きな影響を及ぼす
柔軟な育て方→固定観念にとらわれない価値観の醸成



政府や自治体が親向けの育児支援プログラムやワークショップを通じて、
子どもに多様なジェンダー観を促す環境づくりを推進
→将来的なジェンダー平等の実現に寄与

学校での教育

女性に対してジェンダー平等の重要性を教育現場で強化

女性が自信を持ってキャリア形成に挑戦できる環境を整える

→男女平等の推進

学校教育が男性のジェンダー意識に柔軟性をもたらす

教育機関でのジェンダー平等や幅広い観点での教育の推進

→社会全体としてのジェンダー観が多様化する可能性

留保

家計所得や親の職業や就業状況、家族構成など、
家庭環境に関する情報が不足

異なる家庭環境や教育がどのようにジェンダー
意識に作用するのか深掘りも必要

参考文献

- ・ NHK放送文化研究所(2020)『現代日本人の意識構造 第9版』NHK出版
- ・ 内閣府 (2017)『平成29年男女共同参画白書』
- ・ 高橋保(2006)「性別役割分業論」創価法学, vol.36, no.2,33-67.
- ・ 西野理子 (2015) 「性別役割分業意識の規定要因の推移」東洋大学社会学部紀要 53(1), 139-147.
- ・ 齋藤雄次(2023)「学校教育におけるジェンダー平等の実現に向けたファシリテーションの可能性」日本文理大学紀要, 51(2),29-38.
- ・ 木村涼子 (2022)「日本の教育におけるジェンダー平等の過去・現在・未来」『学術の動向』,319, 68-75.
- ・ 稲田結美(2013)「理科学習に対する女子の意識と態度に関する実践的研究」『理科教育学研究』,54(2),10-11.
- ・ 寺町普哉 (2021) 『教師の人生と向き合うジェンダー教育実践』晃洋書房.
- ・ 茂木輝順・橋本紀子・杉田真衣・艮香織, 2010, 「高校生のジェンダー平等意識と将来観に関する調査研究」『女子栄養大学紀要』41: 77-87.

謝辞

立教大学社会情報教育研究センター データアーカイブ
RUDAより個票データの提供を受けました

調査名：大学生のジェンダーと子育て意識・行動に
関する調査

調査実施年：2006年11月

寄託者：村瀬洋一

配布者：立教大学社会情報教育研究センター

別添 相関行列

相関行列

	1	2	3	4	5	6	7
1.専制型 parenting:男女	1						
2.指導型 parenting 男性	-0.0011	1					
3.指導型 parenting 女性	0.3122*	0.1160*	1				
4.高校で受講	0.1153*	-0.0279	0.1136*	1			
5.大学で受講	0.0037	0.0429	0.0988*	-0.3413*	1		
6.兄の有無	0.0034	-0.0024	0.0282	-0.0074	-0.0359	1	
7.弟の有無	0.0045	0.0629	-0.0379	-0.0179	0.0222	-0.2567*	1
8.姉の有無	-0.0193	0.0045	0.1269*	0.024	-0.0311	-0.1275*	-0.2338*
9.妹の有無	0.0654	0.0265	0.0028	0.0886*	-0.0081	-0.2463*	-0.1686*
10.一人暮らしか否か	0.0082	0.0127	-0.0208	-0.0141	0.0525	0.0376	0.0667
11.高校のみ3年間男子校	-0.0837	0.0792	-0.1333*	-0.058	-0.0139	-0.0103	-0.0218
12.中学・高校と6年間男子校	-0.0549	0.1755*	-0.0575	-0.0405	0.0742	-0.068	-0.0185
13.高校のみ3年間女子高	0.1763*	-0.0739	0.1065*	0.0386	-0.0824	0.0422	-0.0911*
14.中学・高校と6年間女子高	0.0648	-0.0892*	0.1259*	0.0307	0.0241	-0.0543	-0.0615
15.父親が大学・大学院卒	-0.0095	-0.0196	0	0.0156	-0.0881*	-0.0143	0.0454
16.母親が大学・大学院卒	-0.0011	-0.0363	0.0029	0.0165	-0.0511	0.003	-0.0217

相関行列（続き）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16
8.姉の有無	1								
9.妹の有無	-0.2266*	1							
10.一人暮らしか否か	-0.0611	0.0522	1						
11.高校のみ3年間男子校	0.011	0.0519	-0.0074	1					
12.中学・高校と6年間男子校	0.0927*	-0.0154	-0.1510*	-0.1023*	1				
13.高校のみ3年間女子高	0.0659	0.0296	-0.0648	-0.1011*	-0.1047*	1			
14.中学・高校と6年間女子高	-0.0656	-0.02	-0.1084*	-0.1328*	-0.1377*	-0.1361*	1		
15.父親が大学・大学院卒	0.0303	0.0588	-0.0076	0.0028	0.0635	0.0437	-0.0073	1	
16.母親が大学・大学院卒	0.0529	0.0002	0.0156	-0.043	0.0506	0.0154	0.0207	0.3528*	1

限界効果

	限界効果		
	男性	女性	
	Model 3	Model 2	
親のしつけ			
指導型 parenting	-0.08 **	0.02	
専制型 parenting	0.07 **	0.07 *	*
学校での教育			
高校で受講	-0.09 **	0.01	
大学で受講	-0.10 **	0.02	

† p < .10 * p < .05 ** p < .01